

# 中国語

## 第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

### 1 前 文

令和3年度の大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の「中国語」の受験者は625名で昨年度の667名に比べて42人減少したが、「外国語」受験者から見ると0.13%であり昨年度と変わっていない。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和3年度共通テストを以下の3点をよりどころにして、検討・評価に当たることとする。

- (1) 共通テストは「高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とする」試験であるという観点に立ち、高等学校学習指導要領「外国語」の目標を重視する。
- (2) 教育現場からの「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題」となっているかについて、次の「四つの基本的要望」が尊重されているかを重視する。
  - ① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。
  - ② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、分かりやすい簡潔な文章を出題すること。
  - ③ リスニング試験が実施されないことを補うために、ピンインを重視して出題すること。
  - ④ 長文読解においては、内容が抽象的で論理的に説明が難しいような出題は避けること。
- (3) 令和2年度の問題作成部会の見解「問題作成の方針」を参考とすること。

### 2 試験問題の内容・範囲等

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であるが、Dは発音ではなく、ピンインで示された会話文の流れを把握し、抜けている会話文を選択する問題である。発音自体を問う問題は4分の3になったが、ピンイン学習とともに実際的なコミュニケーションも重視する傾向がある。

第1問 計9問 (計36点)	A	B	C	D
	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	12点(4点×3問)

A 昨年度同様、見出し語の下線部の声母（子音）と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式であった。提示された語句はみな重要語であり、声母を問う問題として適切である。

問1 s・xの音の識別を問う問題。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問2 有気音の“q”と無気音の“j”の判別だが、間違えやすい他の声母(chなど)を入れても良かったと思われる。

B 韻母（母音）に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

問1 “un”と“en”の判別であるが、“ün”も入れるなど工夫できたように思われる。

問2 “iao”と“iu”の判別は容易と思われる。一考を要する。

C 二音節語について、見出し語と声調の組合せが同じものの数を問う問題である。

問1 見出し語も選択肢も重要語であるが、声調の組合せが2種類なので見出し語の声調が分からなくても「二つ」の正答を得られてしまう点は考慮を要する。

問2 見出し語も選択肢も重要語であり、適切である。

D 文は会話文と選択肢ともにピンインで示してあり、ピンイン学習を重視する問題となっており評価できる。

問1 会話文、選択肢ともに難解な語句はないが、文の構造をきちんと捉えることが要求される出題で良問である。

問2 “不看着点儿“はあまり学習する機会がないが、“眼睛没事儿吧”から“摔倒了”を含む文を選択できる。選択肢に工夫が欲しいところである。

問3 正答④と①は“真的？我本来想去银行，这么说”が同じであり、もう少し多様な選択肢があつて良いのではないかと思われる。

第2問 昨年度のAの出題形式が第1問に、昨年度のBの形式がAに、Cの形式がBに今年度は移行し、Cは新たな出題形式で、問題数も1問少なくなり、4点少ない配点となった。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識が要求される。選択肢は重要語である。

問1は、“～之情”を「表す」に合う動詞を選択する問題で、慣用的用法を測る面が強いが、単語の用法の理解を確認する良問である。

問2は、“看样子～、…呢”で「実際は」に合う副詞を選択する問題で、適切である。

問3も「～によって、～に照らして」に合う介詞を選択する問題で、良問である。

B 類義語を問う問題。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

問1は、空欄には「注意する、気をつける」という意味の語句が入るが、“专心”“注视”の意味を確認する適問である。

問2は基礎的な語法の理解を確認する良問である。

問3も“看一看～”に合う副詞を見分ける問題で、単語の用法の理解を見る適問である。

C 短文に適語を8つの選択肢から2つ選ぶもので、“～练习”“感到～”につながる語句としては、慣的な表現であり、基礎的な理解を見る適切な問題である。

第3問 和文中訳、中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題であり、設問形式及び設問数は昨年度と同じである。単語の難易度は高くなく学習してきた文法事項や語法を活用、応用し、熟考することにより正答できるような設問が望ましいと思われる。

A 和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選び並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の理解を確認する問題として適切である。

問1 “接来”の目的語“爷爷”の位置を問うもので、適切な出題である。

問2 「ずっと～ではいけない」は“老”の副詞の用法、“别”の禁止の用法を使い表現できるかを見る点では適切であるが、“坐着不动”のフレーズは、高校からの学習者にとっては少し難易度が高いかと思われる。

問3 疑問詞の呼応、様態補語を使った表現を問う基本事項を押さえた良問と言える。

問4 “对付”は高校からの学習者はあまり見ない単語であるが、辞書でも常用単語とされているので、授業で多読を取り入れるなどの対応を考える必要があると言える。一方、構文などの知識で表現力を問うことも望みたい。

B 示された和文に相当するピンインで記された中国語を選ぶ問題。

問1は接続詞“不然”の使い方、発話の主体を確認する適切な設問。問2も「本の量」と「読書量」を取り違わずに「もっと本を読んでいた」という表現を正確に掴んでいるかを問う適切な問題である。

C ピンインで示された中国語文に相当する日本語を選ぶ出題。問1は、使役を表す兼語文、“放心”を可能補語にする形、発話の主体が分かることがポイントである。基本的な学習

事項を押さえた良問である。問2は“不能不”が分かれば前半部の“都”は容易に理解できるので、もう少し考えさせる部分があってよいかと思われる。

第4問 昨年度と出題形式が大幅に変わり、Aの「文章・表・会話文」、Bの「文章・グラフ・スライド」のそれぞれ3つの言語材料から総合的に判断する融合問題2題になった。

A 日本旅行のお土産にもらった抹茶でプリンを作るという内容の文章、2種類のプリンの作り方を書いた表（レシピ）に基づき、会話文の空欄補充や内容理解の設問に答える問題。

問1 会話文の空欄補充出題で、**A**は易しいが、**C**“做布丁必不可少的材料”「プリン作りに必要な不可欠な材料」、両レシピに共通の材料が分かるかを見る良問である。

問2 Aの文章で、最終的にどちらのプリンを作ったか、またその理由を問う適問である。

問3 文章と表の理解度を測るもので、出題意図は適切であるが、出題方法は個数を答えるのではなく、正しいものを答える方法に改善すべきである。“都非常好吃”の“都”から“几次”を導き出すが、複数個食べたことがあることも考えられ、またE“让她又吃惊又好吃”を選んだとも考えられるので、出題形式及び選択肢について一考を要する。

問4 表2の“特点”を理解できていれば容易であるが、与えられた言語材料をバランスよく出題しており適切である。

B 紙のリサイクルの記事、学生たちが導き出した問題点そして日本における紙使用量の変化のグラフを見ながら、会話文を見て答える問題と文法問題である。

問1 記事の内容理解を見る問題として適切である。

問2 記事内容の理解とグラフの読み取りを問うもので、“纸张的使用量看不出变化”“觉得奇怪”の会話文の流れを適切に理解しているかを見るものとして適切である。ただ、グラフは変化がないので、グラフの読み取りという点では提示する意義が薄いと思われる。

問3 文章理解を発展させる形での要点を問うものとして良問である。

第5問 「断捨離」の流行から経済や人間の自由に言及した評論文の読解の問題。

問1 “光”の限定を意味する副詞の用法を問う問題で適切である。

問2 日本語では「使わないものをはっきりさせる」でもつながるが、“明确”の使い方を考えると“整理”が適切だと分かる。文脈と語句の用法を問う良問である。

問3 “好”＋動詞の用法を見る適切な設問である。

問4 空欄の次の文が“这”で受けている。前後の関係を見れば“物质”と“自由幸福”の関係が分かる。文章の読解を試す適切な設問である。

問5 文脈から反語表現が適切と読み取り、「人々が自由を感じていない」という意味になるように選択する。複数の反語表現も試す良問と言える。

問6 その前に“大量生产和经济增长”が“物质的泛滥”を引き起こすと述べている。その後の流れを見れば正答できる。文章の流れをつかんでいるかを問う適切な設問である。

問7 人と“物质”の関係を言っていること、次の文で“在物质的束缚中得到解放的自由”と言っていることから正答できる適切な設問である。

問8 抽象的な性質を持つものに使う数量詞を問う適切な設問であるが少し容易で組合せなどで工夫しても良かったかと思われる。

問9 センテンスの構造をきちんと捉えられるかを試す良問である。

問10 極度に紛らわしい選択肢もなく文章を的確に読めていれば正答できる良問である。

### 3 分量・程度

#### (1) 分量

今年度は第5問が33字×27行の約800字弱となり、文章量については昨年度の大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と比べ大幅に増えたと言える。またストーリー性のある長文がなくなり、第4問で文章と資料・会話を組み合わせた問題となり、読む量が大幅に増えた。これは共通テストに移行した全体の傾向であり、我々も昨年度の検討において、「長文読解については、もう少し長い文章を考察し理解する能力を試す設問も求められると思われる」と述べている。が、やはり80分の試験時間を考慮しながら本文の分量、内容及び設問の難度のバランスを考えていただきたい。

#### (2) 程度

今年度の設問は、高校生にとって難解なレベルのものは多くないが、第4問の資料や文章を参照するためページを何度もめくらねばならない。ページ構成を工夫していただきたい。

### 4 表現・形式

点数配分も妥当で、センター試験と比べ、総合的思考力や速読力が求められるようになった。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
設問	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	9	7	8	7	10
配点	36点	32点	32点	52点	48点

### 5 要約

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年
受験者数	482	558	574	665	667	625(-42)
平均点	158.02	164.91	154.90	150.89	167.41	160.34(-7.07)

令和3年度共通テストは、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。他の外国語と平均点の差も縮まり、受験者は42名減であったが外国語の受験における割合としては横ばいであり、高校3年間で学ぶ中国語のレベルに近づいてきたと考えられる。外国語における中国語科目の社会的なニーズの高まる中、今後も共通テストの科目として有効に活用されることを望む。全体としてはおおむね適切な問題だったが、今後の出題として以下の点に御考慮いただきたい。

- ・今年度高得点だった設問を次年度に難易度を極端に上げないようにしていただきたい。
- ・第1問の単語の知識を問う問題では、日頃学んでいる見慣れた単語を選んでいただきたい。
- ・第4問については図表を効果的に使った作問を期待したい。第5問の文章量は、設問の難易度とのバランスを考慮していただきたい。内容が抽象的すぎないような配慮をお願いしたい。
- ・高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。
- ・今年度の報告書に則して、高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題を今後ともお願いしたい。

## 第2 問題作成部会の見解

### 1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 英語以外の外国語については、大学入試センター試験の枠組みを受け継いだ『筆記』テストを課し、「リスニング」テストは実施しない。
- 教科としての外国語科の目標である「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う」に基づき問題作成を行う。  
また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 問題作成に当たっては、CEFR等を踏まえた力を問うことをねらいとして作成する。  
その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮し、問題作成を行う。

### 2 各問題の出題意図と解答結果及び出題に対する反響・意見等についての見解

大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）第1回である令和3年度の問題の種類と各設問数、配点の内訳を【表1】に示す。200点満点は大学入試センター試験（以下「センター試験」という。）と変わらないが、従来2題出題していた長文問題を1題に削減し、大問5題とした。ただし、全体の解答数については、前年度のセンター試験の変更を引き継ぎ、同じく52とした。

第1問は発音問題であるが、Dに関しては、ピンインによる出題をリスニング問題の代替とする観点に基づき、従来の声調の組合せを選ばせる問題から、これまで第2問Aで出題していたピンインによる会話問題に変更した。これに伴って第2問は、従来の第2問BをAに、第2問CをBに移した。加えて新第2問Cを新設し、100～120字ほどの文章を読み、文脈に従って適切な語を選択する問題とした。第3問は大きな変更はない。第4問は、コミュニケーション能力を読み取り測定する観点から、問題をより充実させた。中間Aでは、文章・表・会話から情報を読み取った上で適切な選択肢を選ばせ、コミュニケーションにおける情報の受信力を測定できる問題とした。中間Bでは、文章・イラスト・メモ・グラフから情報を読み取り、それらを総合して発信することを想定して、適切な選択肢を選ばせ、コミュニケーションにおける情報の発信力を測定できる問題とした。このような問題の充実に合わせて設問数を4つ増やし、配点も52点に増やした。第5問に関しては、従来長文問題では物語文を読解する問題と論説文を読解する問題の2題を出題していたが、第4問の拡充に伴い、長文問題を1題に削減した。第5問の設問数は、従来の長文問題の大問1題当たりの問題数が7から8であったのを増やし、11とした。

【表1】

問題の種類	発音・ピンイン	語句	表現理解力	コミュニケーション力	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
解答数	9	8	12	12	11
配点	36点	32点	32点	52点	48点

第1問：発音の基礎及び正確さを確認する問題、正確なピンイン把握によるコミュニケーション力を確認する問題である。

音節の三つの要素（声母、韻母、声調）について問う出題及び正確なピンインの把握によるコミュニケーション力を問う出題となっている。中間AからDにわたって、日本の高等学校で初め

て中国語を学ぶ生徒の語彙の習得範囲を考慮し、基本的な単語から出題した。全体の平均点と比べてみると、おおむね正答率が高いものの、識別力のある問題となっている。高等学校教科担当教員（以下「教科担当教員」という。）からは、発音問題全体に関して、見出し語が常用される単語になっているが、さらにバラエティに富んだ選択肢を用意すべきではないかとの意見があった。

Dについてはこれまでの第2問Aと同様、会話文、選択肢をピンインで出題した。中国語表記の補助手段としてピンインによる表記法を用いることは、中国語の4技能をバランスよく習得するために必要な手段であり、日本の高校における中国語教育では極めて重要である。教科担当教員からは、易しい単語を用いた展開のある会話をピンインで出題する形式は、ピンイン学習を重視した出題であり、適切であるとの評価を受けている。

A：声母に関する知識を問うもので、**1**は“s”と“x”の区別、**2**はともに有気音“q”と無気音“j”の区別を問うもので、正確な発音の習得と知識が求められる。

B：韻母に関する知識を問うもので、**3**は“-un”と“-en”の区別、**4**は“-iao”と“-iu”の区別を問うた。

C：声調に関する知識を問う問題で、二音節語における声調の組合せを問うており、5つの二音節語、即ち10の音節に関して正確に把握していなければ正解は導けない。中国語を学ぶ初学者にとっては習得に苦勞するポイントであると同時に、相当中国語に習熟した者でも正確な知識をままたくことがある。

D：ピンインの会話文によるコミュニケーション力を問う問題で、例年正答率が比較的高めの問題であるが、今年度も正答率は高く、全体として識別力を有する問題となっている。

第2問：語彙力・表現力を測る問題である。

Aは文の一部を空白とし、適切な語を選ばせる問題で、単語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。あわせて類義語の区別も問うた。**10**、**11**、**12**ともに正答率が高かった。特に成績上位層の識別に課題を残した。教科担当教員からは、選択肢が重要語であり、適切な問題であるとの評価を受けた。

BはAと同様に、単語の意味・用法に対する正確な知識を問う問題である。適当でないものを選ばせることで難易度を上げており、いずれも識別力を備えた問いになった。特に**15**は、成績中位～上位層にとっての識別力が高かった。教科担当教員からは、選択肢がいずれも重要語であり、単語の用法の理解を見る適切な問題であると評価されている。

Cは、共通テストで新設の問題であり、100～120字ほどの短文を読み、文脈に従って適切な語を選択させることによって、語彙力を確認するものである。成績下位層にとっては識別力を有する問題となった。教科担当教員からは、語彙の基礎的な理解を見る適切な問題であるとの評価を受けた。

第3問：作文能力及びコミュニケーション力を測る問題である。

和文中訳及び中文和訳を通して、中国語の表現力、理解力を測る問題であり、設問形式や設問数は昨年度と同じである。

A：日本語の文を読み、与えられた語句を正しく並べて対応する中国語の文を作る、和文中訳の設問である。従来は8つの選択肢から必要な5つを選び正しく並べる問題であったが、今年度から8つの選択肢から必要な4つを選ぶ問題に変更した。問1**18**、**19**及び問2**20**、**21**は全体の平均点を下回る正答率であった。それに対し、問3**22**、**23**、問4**24**、**25**は全体の平均点を上回った。教科担当教員からは、選択肢の語句はいずれも重要語であり、語句の用法や文法の理解を確認する適切な問題であるとの評価を得た。

B：和文中訳問題で、選択肢の中国語はピンインで表記してあり、日本語の日常的な表現に対応する中国語の運用能力を測ろうとするものである。問1，2ともに日本語の表現を的確に理解した上で、ピンインで示された中国語の選択肢の全てを、それぞれ最後まで読み解かなければ正解が導けないように工夫した。問2 [27] の正答率は非常に高かった。問1 [26] も、問2ほどではないものの、正答率が高かった。識別力に課題を残したと言えよう。

C：中文和訳で、問題文の中国語はピンインで表記してある。選択肢の日本語文を最後まで読み解かなければ正解できないように工夫した点は、上記Bと同様である。問1 [28]，問2 [29] ともに5割前後の正答率であり、全体の平均点に比してかなり低いものとなった。ともにピンインで示された文を細部にも注意を払って正確に日本語訳できるかどうか問われた。

教科担当教員からは、第3問全体を通じて、平易な単語を用いて、高校で学習した文法事項を応用し、熟考することによって正答を導ける問題にしてほしいとの要望があった。

第4問：日常生活や学習活動など、実際のコミュニケーションの場を具体的に設定して、身近な話題に関する資料から、必要な情報を読み取り、複数の情報を比較・判断して要点をつかむ力を問う問題である。言語情報处理的観点から必要な内容を整理・統合して正しい解答を得るようにしている。中間Aでは情報を受信する場面における中国語運用能力、中間Bでは情報を発信する場面における中国語運用能力を問う。

日常生活に即した素材からの出題であるため、従来出題には使われなかった語彙もこの第4問に限り取り入れている。ただし、受験者にとって難度が高い語彙は避け、正答を導くのに必要な情報は適切な語彙レベルを維持するよう、配慮した。また、現実の生活の場では随所にイラスト・図表・メモ・グラフなどを使って情報をスムーズに伝える工夫がなされており、ここでそれらを用いるのは、そのような日常生活の中での中国語の運用能力を問うことを主眼とするためである。

Aは“豆浆抹茶布丁”と“柠檬抹茶布丁”のいずれかを作る場面を設定し、300字ほどの文章、レシピの表、会話文などから適切な情報を受信する能力を測る問題である。問1は、2種類のプリンのどちらを作るかということに関する会話文の流れを的確につかみ、適当な語句を空欄に補う問題である。問2は、設定された場面において、どのような理由によって、どのプリンを作ることに決めたのかを問う問題である。問3は、文章と表の内容に一致する選択肢の中国語文の個数を問うた問題である。問4は、プリンに関するウェブサイト上のコメントを読み、2種類のプリンのうちいずれを作ったかを問う問題である。様々な情報を得て、それら进行处理し、適切な解答にたどり着く能力を測っている。[33]は識別力が非常に高く、ついで[34]，[35]の識別力が高かった。会話の流れを読みながら適当な語を空欄に当てはめるといった問題に更に一工夫加え、会話の流れの解釈や論理展開に踏み込んだ出題を行うことが今後の課題となろう。教科担当教員からは、おおむね高い評価を得たが、一部の設問で出題形式に一考を要するとの意見があった。

Bは、学生たちが古紙再生についてのレポートを作成するという場面を設定し、500字ほどの記事、会話文、学生たちがまとめたポイント、グラフなどから適切な情報を受信した上で、それら情報を概括して発信する能力を測る問題である。問1は、学生たちが古紙再生に関する記事を読んでまとめたポイントのうち、不正確なものを2つ選ぶという問題であった。問2は、記事に加えて、日本の紙の使用量の変化を示したグラフを見て行われた会話を読み、空欄に適切な語句を補う問題である。問3は、学生たちが記事に基づいて作成したプレゼンテーション用のスライドを見て、空欄に文を補う問題であった。[36]，[37]は、記事を細部まで読み、論理的な解釈を加えなければ、正答が導き出せなかったためか、正答率が低かった。全体の内容をまとめる能力を必要とする[40]，[41]は、識別力を有するものとなった。これに対して、[38]，[39]は、

成績下位層にとって識別力を有した。

教科担当委員からは、記事の内容理解を問う適切な問題であるとの評価を受ける一方、グラフの読み取りに関して改善すべき余地があるとの意見が出された。また、解答中にページを何度もめくらなければならない、試験問題としてのレイアウトに工夫が必要ではないかとの指摘もあった。第5問：長文読解力を測ることを主たるねらいとしている。

今年度は論説文から選んだ。長文の分量は、長文問題の大問が1題削減されたことに伴い、800字強に増やした。第5問の得点率を見ると、全体の平均点と比べて著しく低い値にはなっておらず、受験者が時間不足のために問題を解ききれなかったということはなかったように推察される。問題文は、使用語句、表現などにも留意しながら、共通テストにふさわしい内容に書き換えている。素材や書き換えなどについても、教科担当教員から毎年提出されている要望を反映するよう努めている。

問題文は、日本人女性の提唱した「断捨離」が人々の生活様式や経済に与えた影響を論じた論説文である。問1は、長文中に現れる副詞“光”について、文脈に従って意味を判断し、5つの選択肢の中から同じ用法のものを選ぶ問題であった。問2は、問題文中の空欄に適切な動詞＋方向補語を補うものである。問3は、問題文中の一文に“好”を補うべき適切な位置を問うものである。問4は、文中の空欄に補う適切な中国語文を選ぶものであった。問5は、文中に補うのに適当でない反語表現を選ぶものである。問6は文中の空欄に適切な中国語の語句を補うものである。問7は、文中の下線部の解釈を中国語の選択肢から選ぶ問題であった。問8は空欄に適切な数詞＋量詞を補うものである。問9は下線部の内容を日本語の選択肢から選ぶものである。問10は、従来どおり、問題文全体の内容に合致する選択肢を選ぶ問題であった。

第5問全体を通しては、**50**の正答率が低く、5割に満たなかった。ついで**48**の正答率が7割台前半、**46**の正答率も7割台にとどまった。このうち**50**と**48**は、ともに下線部の解釈を問う問題であり、受験者を熟考させる問題であったと言えよう。**46**は、反語表現の選択肢の中から適当でないものを選ぶものであり、難易度が高くなったかと思われる。これに対して、文法的に同じ用法の副詞“光”を選択する**42**や文脈から適切な語句を選択する**43**などは、受験者全体の正答率も高かった。

教科担当教員からは、極度に難しい問題もなく、おおむね文法的な知識の確認をしつつ文章の読解力を測る適切な問題であるとの評価を得た。

### 3 まとめと今後の課題

平均点は、共通テスト(1)が160.34点(200点満点)、100点満点換算で80.17点であり、最高点は200点、最低点は30点、標準偏差は32.63であった。共通テスト(2)が161.14点、100点満点換算で80.57点であり、最高点は191点、最低点は54点、標準偏差は31.57であった。共通テスト(1)と共通テスト(2)では、受験者数が大きく異なっているため、単純に比較できないかもしれないが、平均点は両者でほぼそろったと言えよう。中国語は他の外国語と比べ平均点が高い傾向にあるが、中国語の受験者層の特性を考慮すれば、いたずらに平均点にまどわされることなく、高校の学習で到達した学力を正しく評価できる試験であるべきと思われる。教科担当教員からも、高校からの学習者が対応できるような問題作成を強く要望されている。問題作成の方針が平均点によって揺らぐことは、学習者にとって望ましくないと思われる。

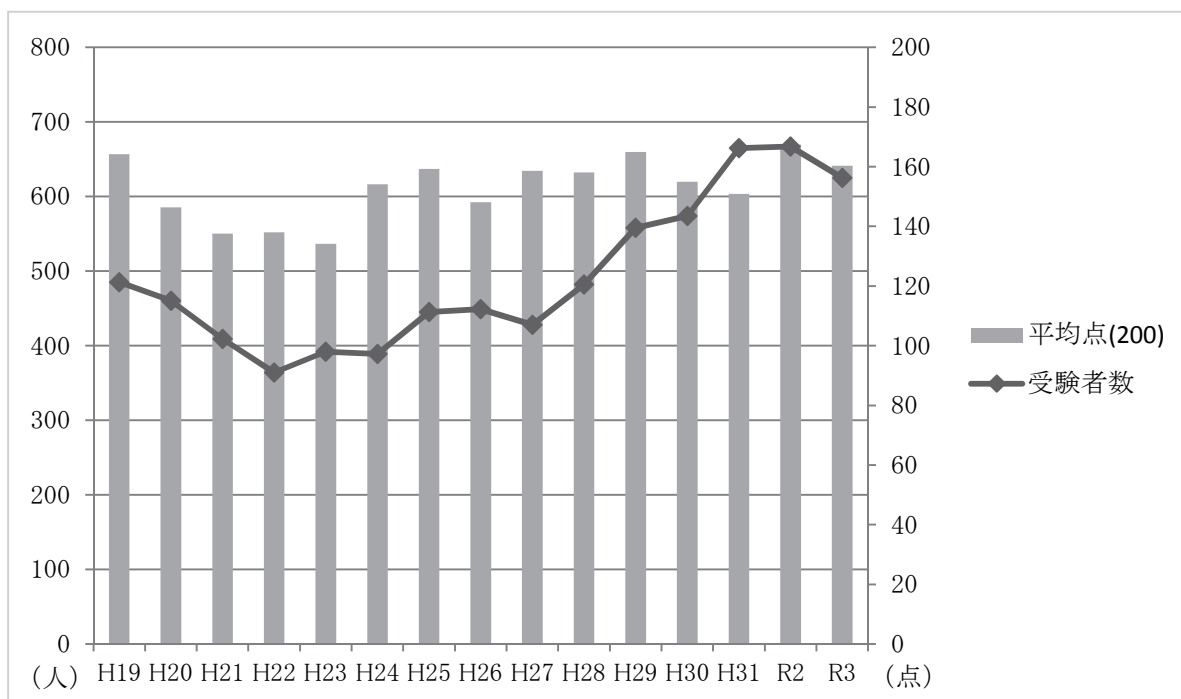
平成19年度以降の15年間の受験者数及び平均点の変化は【図1】となる。共通テスト(1)受験者は625人、共通テスト(2)受験者は14人であり、合計639人であった。これは、昨年の本試験受験者667人から28人の減少となった。受験者数は、この3年間で665人、667人、639人とほぼ横ばいで



推移しており、高校において中国語教育が着実に定着しつつあることの証左と見ることができよう。平均点はここ数年100点満点換算で75～80点前後の点数で推移している。来年度以降も、共通テストの目的に則して、基礎的な学力を身に付けた受験者が報われるような問題作成を心がけていきたい。

共通テスト初年度の結果として見た場合、シンプルな情報摂取、情報把握を問うだけにとどまらず、語学の本来の意義である読解力を問い続ける必要性がうかがわれる。

今年度も教科担当教員の方々をはじめ各方面から有益な意見を頂いたことに、深く感謝したい。こうした意見を参考にしながら、「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる問題」の作成を通じて中国語教育の発展と充実に寄与していく所存である。



【図1】 ※令和3年度は共通テスト(1)のみ